

# 稲美町進路に関する調査 調査結果報告書

令和2年11月

稲 美 町

# 目次

|    |                     |    |
|----|---------------------|----|
| I  | 調査概要                | 1  |
| 1. | 調査の目的               | 1  |
| 2. | 調査項目                | 1  |
| 3. | 調査の設計               | 1  |
| 4. | 回収状況                | 1  |
| 5. | 報告書を見る際の注意事項        | 1  |
| II | 調査結果                | 2  |
| 1. | 回答者の属性              | 2  |
| 2. | 稲美町での生活環境等について      | 6  |
| 3. | 人口問題について            | 11 |
| 4. | 行政やまちづくりへの住民参加等について | 14 |
| 5. | 稲美町の施策について          | 18 |

# I 調査概要

## 1. 調査の目的

稲美町が目標とするまちの姿を明らかにするとともに、実現に向けた施策を示す「第6次稲美町総合計画」の策定にあたり、住民の現在の生活環境や将来に向けたまちづくりについての意見を把握し、町の施策や計画の基礎資料とするために実施した。

## 2. 調査項目

- (1) 回答者自身のことについて
- (2) 稲美町での生活環境等について
- (3) 人口問題について
- (4) 行政やまちづくりへの住民参加等について
- (5) 稲美町の施策について

## 3. 調査の設計

- ・ 調査対象：稲美町内にお住まいの18歳・22歳の方 627人
- ・ 調査方法：郵送配布・郵送回収
- ・ 調査期間：令和2年9月15日（火）～ 令和2年9月30日（水）

## 4. 回収状況

| 対象者数 | 有効回収数 | 有効回収率 |
|------|-------|-------|
| 627人 | 224人  | 35.7% |

## 5. 報告書を見る際の注意事項

- 回答は各質問の回答者数（n）を基数とした百分率（％）で示してある。
- 百分率は小数点以下第2位を四捨五入して算出した。このため、百分率の合計が100%にならないことがある。
- 1つの質問に2つ以上答えられる“複数回答可能”の場合は、回答比率の合計が100%を超える場合がある。
- グラフ等の記載にあたっては、調査票の選択肢の文言を一部省略している場合がある。
- サンプル数が少ないものについては、コメントを割愛している。

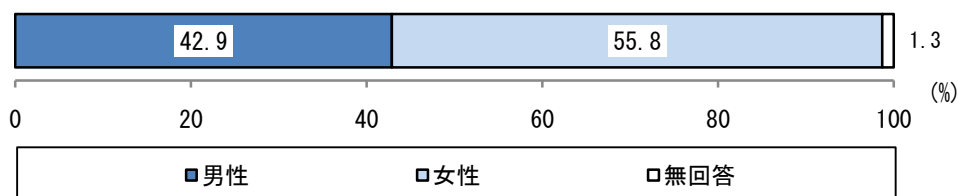
## Ⅱ 調査結果

### 1. 回答者の属性

#### (1) 性別

- 調査回答者の性別は、「男性」が42.9%、「女性」が55.8%となっている。

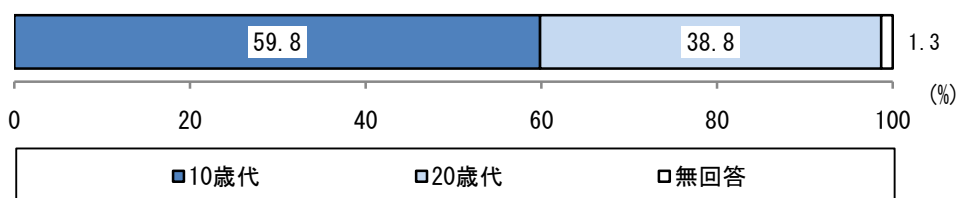
(n=224)



#### (2) 年代

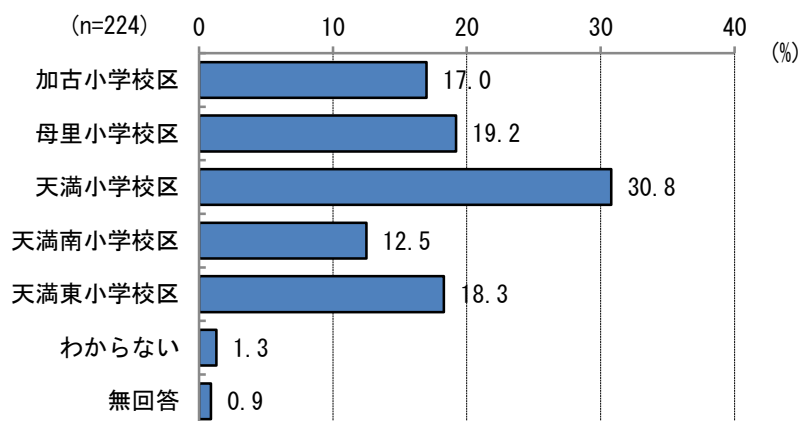
- 調査回答者の年齢は、「10歳代」が59.8%、「20歳代」が38.8%となっている。

(n=224)



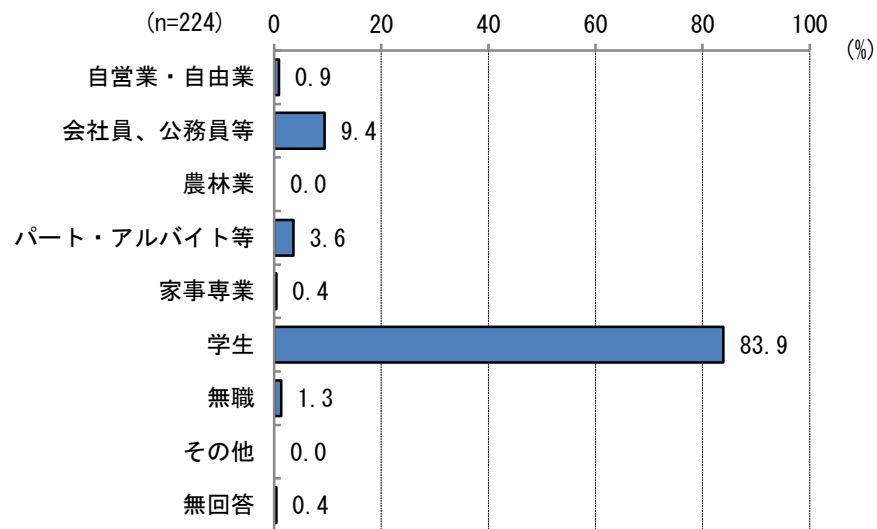
#### (3) 居住小学校区

- 調査回答者の小学校区は、「天満小学校区」が30.8%と最も高く、次いで「母里小学校区」(19.2%)、「天満東小学校区」(18.3%)の順となっている。



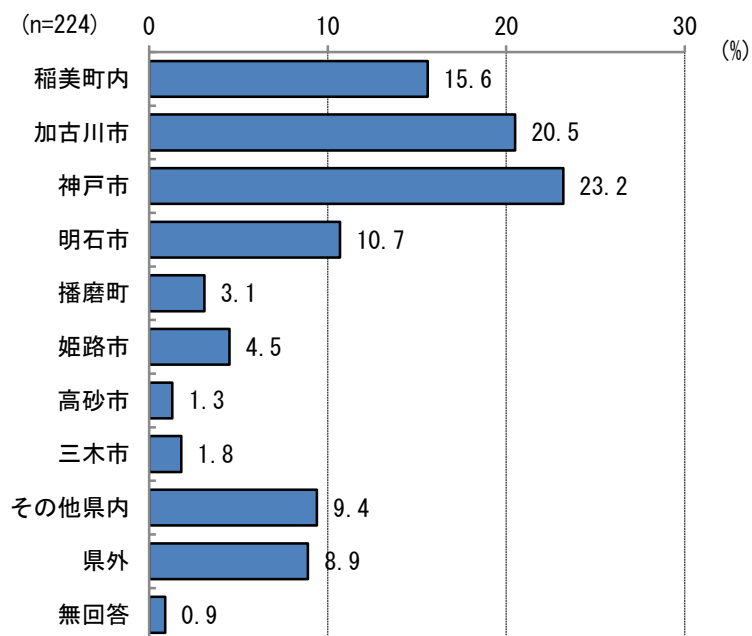
#### (4) 職業

・調査回答者の職業は、「学生」が83.9%と最も高くなっている。



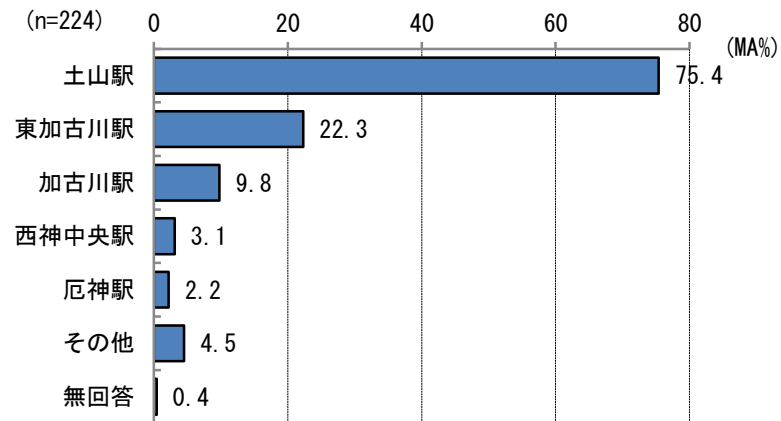
#### (5) 通勤・通学先 ※(4)で「就労・就学している人」のみ

・調査回答者の通勤・通学先は、「神戸市」が23.2%と最も高く、次いで「加古川市」(20.5%)、「稲美町」(15.6%)の順となっており、『町外』に通勤・通学している人が8割以上を占めている。



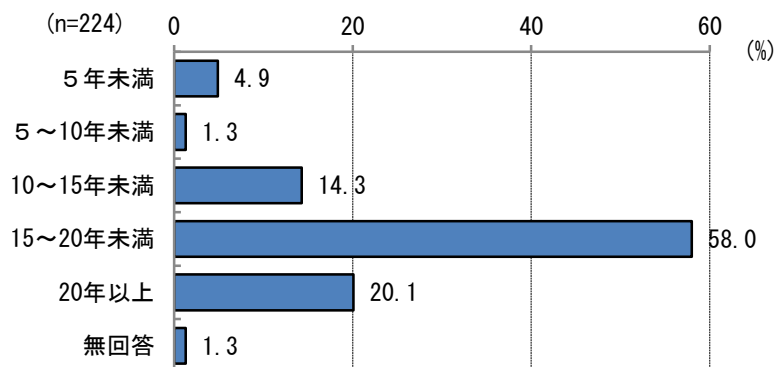
## (6) 自宅からよく利用する駅

- 調査回答者の自宅からよく利用する駅は、「土山駅」が75.4%と最も高く、次いで「東加古川駅」(22.3%)、「加古川駅」(9.8%)の順となっている。



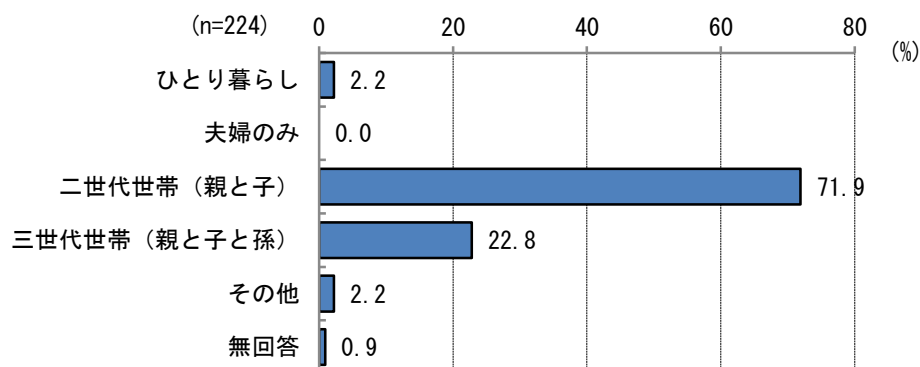
## (7) 稲美町での居住歴

- 調査回答者の稲美町での居住歴は、「15~20年未満」が58.0%と最も高く、次いで「20年以上」(20.1%)の順となっており、稲美町に居住して『15年以上』の人が8割近くを占めている。



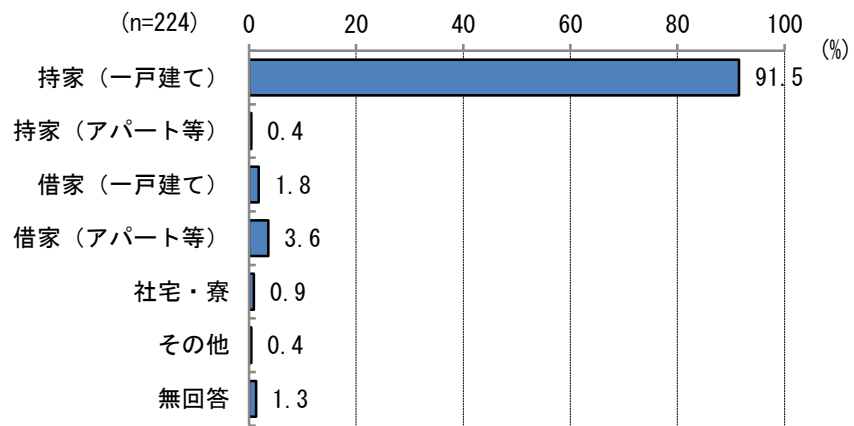
## (8) 世帯構成

- 調査回答者の世帯構成は、「二世帯世帯(親と子)」が71.9%と最も高く、次いで「三世帯世帯」(22.8%)となっている。



## (9) 居住形態

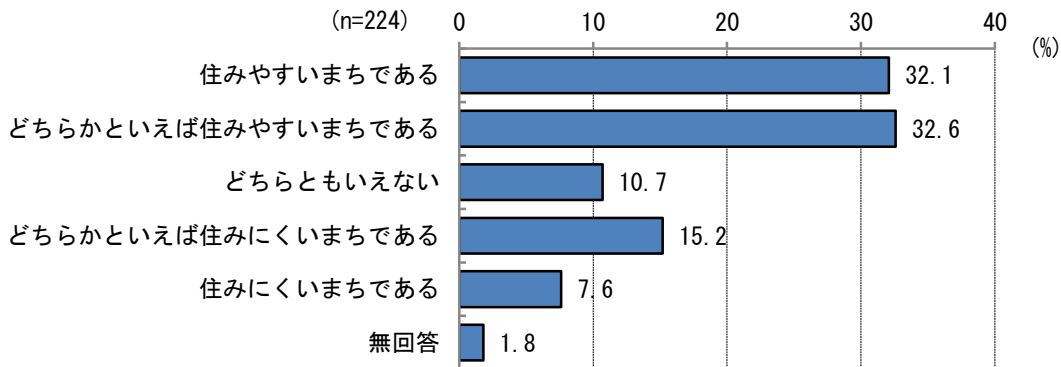
- ・調査回答者の居住形態は、「持家（一戸建て）」が91.5%と大半を占めている。



## 2. 稲美町での生活環境等について

### (1) 稲美町の住みやすさの評価

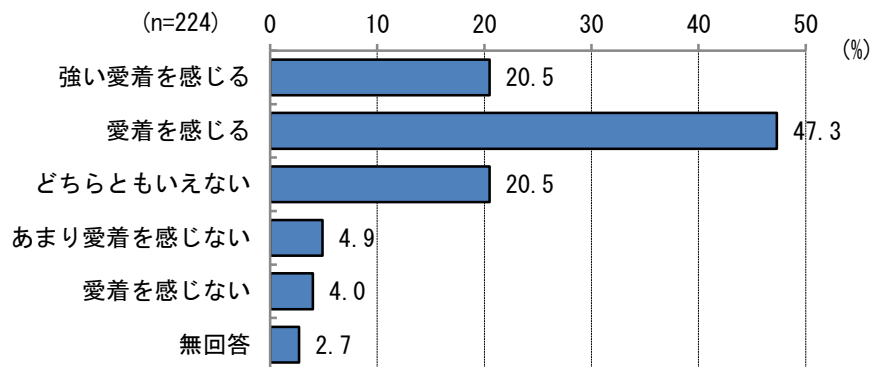
- ・稲美町の住みやすさの評価については、「どちらかといえば住みやすいまちである」が32.6%と3割を超えて最も高く、「住みやすいまちである」(32.1%)と合わせると、6割以上の人が住みやすいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「どちらかといえば住みにくいまちである」(15.2%)と「住みにくいまちである」(7.6%)を合わせると、2割以上の人が住みにくいと感じていることがわかる。



### (2) 稲美町・お住まいの地区への愛着

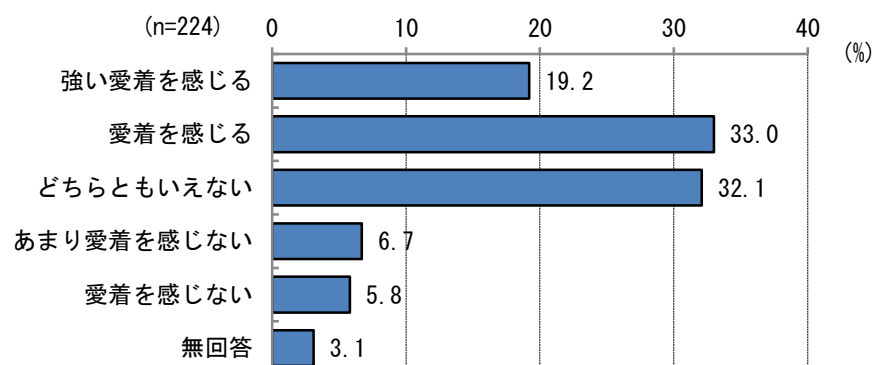
#### ① 稲美町への愛着

- ・稲美町への愛着については、「愛着を感じる」が47.3%と半数近くを占めて最も高く、「強い愛着を感じる」(20.5%)と合わせると、7割近くの方が稲美町に愛着を感じていることがわかる。



#### ② 自分の住む地区への愛着

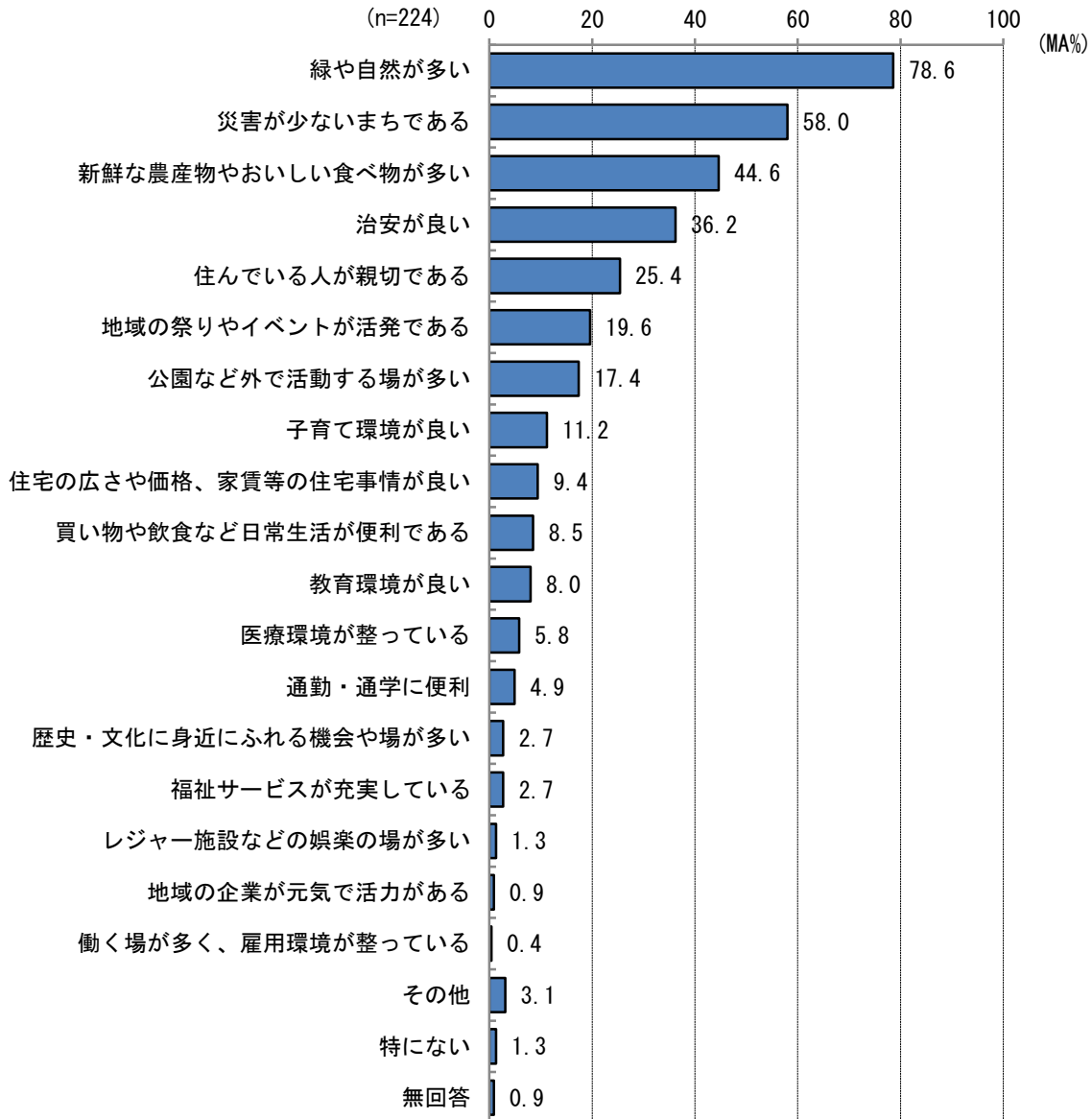
- ・自分の住む地区への愛着については、「愛着を感じる」が33.0%と3割以上を占めて最も高く、「強い愛着を感じる」(19.2%)と合わせると、半数以上の方が自分の住む地区に愛着を感じていることがわかる。稲美町への愛着と比較すると、やや低い結果となっている。





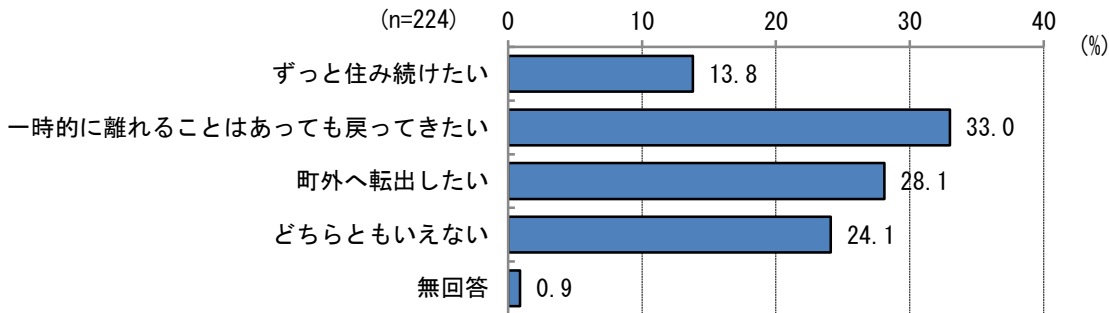
### (3) 稲美町の強み

- ・稲美町の強みについては、「緑や自然が多い」が78.6%と8割近くを占めて最も高くなっている。
- ・次いで、「災害が少ないまちである」(58.0%)、「新鮮な農産物やおいしい食べ物が多い」(44.6%)、「治安が良い」(36.2%)、「住んでいる人が親切である」(25.4%)の順となっており、災害の少なさや自然の多さ、人柄の良さなどが高い項目となっている。



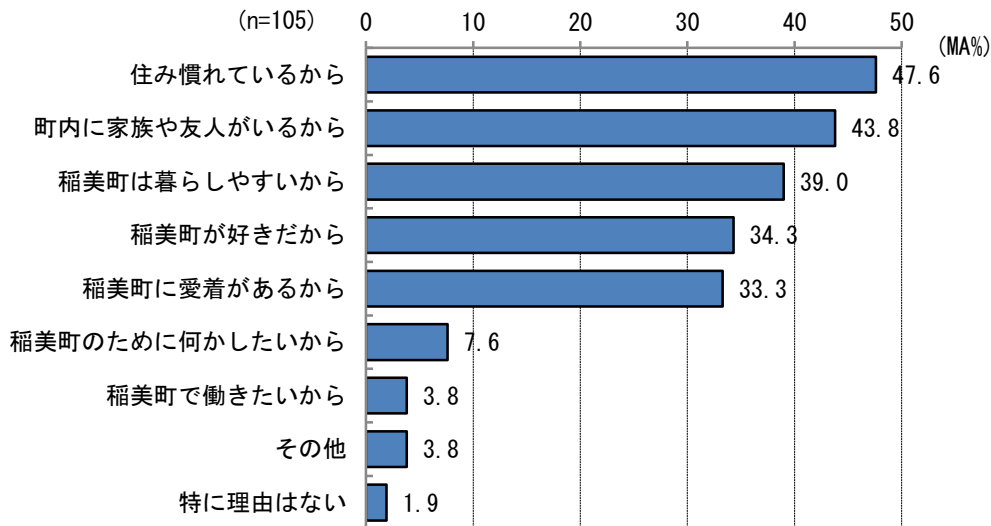
#### (4) 稲美町での今後の居住意向

- ・稲美町での今後の居住意向については、「一時的に離れることはあっても戻ってきたい」が33.0%と3割以上を占めて最も高く、「ずっと住み続けたい」(13.8%)と合わせると、4割以上の人が住み続けたいと感じていることがわかる。
- ・一方で、「町外へ転出したい」は、28.1%と3割近くを占めている。



#### (5) 稲美町に今後も住み続けたい理由

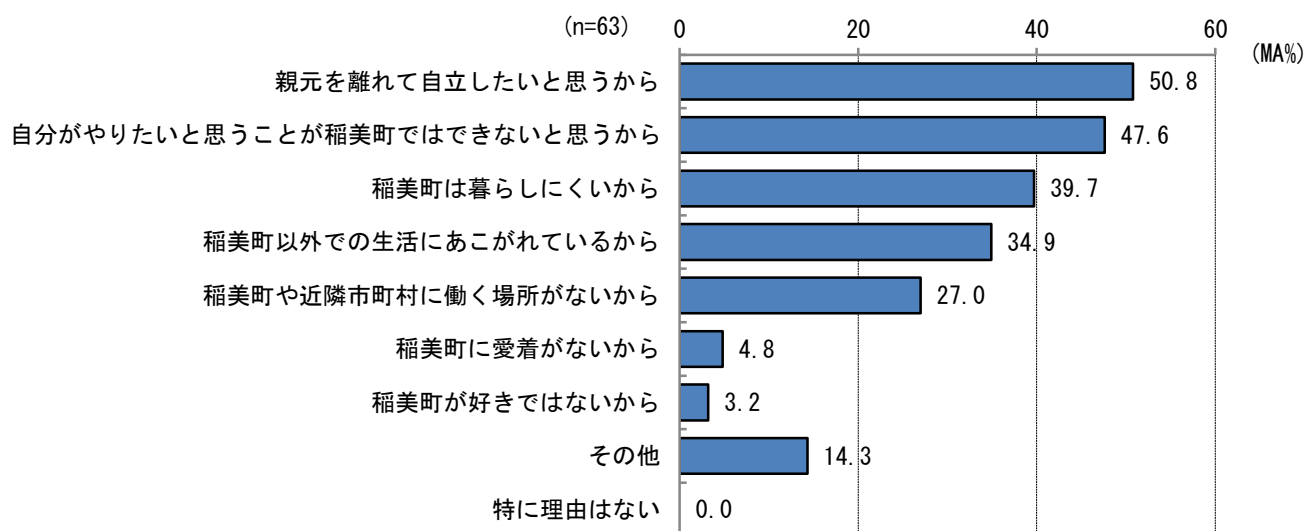
- ※ (4) で「ずっと住み続けたい」「一時的に離れることはあっても戻ってきたい」と回答した人のみ
- ・稲美町に今後も住み続けたいと回答した人の理由については、「住み慣れているから」が47.6%と半数近くを占めて最も高く、次いで「町内に家族や友人がいるから」(43.8%)、「稲美町は暮らしやすいから」(39.0%)の順となっている。



## (6) 稲美町に今後も住み続けたいと思わない理由

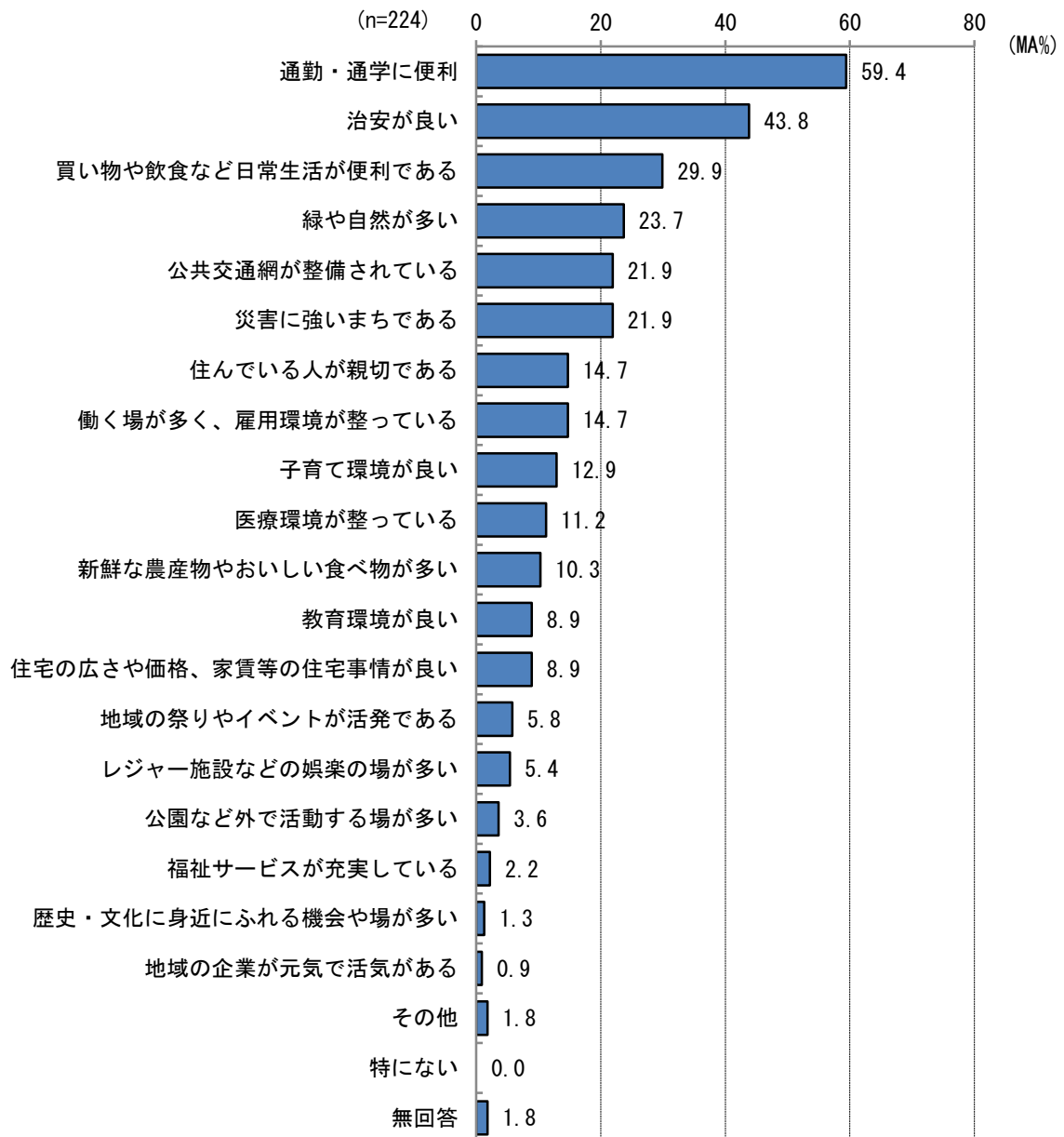
※ (4) で「町外へ転出したい」と回答した人のみ

- ・町外へ転出したいと回答した人の理由については、「親元を離れて自立したいと思うから」が50.8%と約半数を占めて最も高く、次いで「自分がやりたいと思うことが稲美町ではできないと思うから」(47.6%)、「稲美町は暮らしにくいから」(39.7%)の順となっている。



### (7) 居住環境として重要だと考える項目

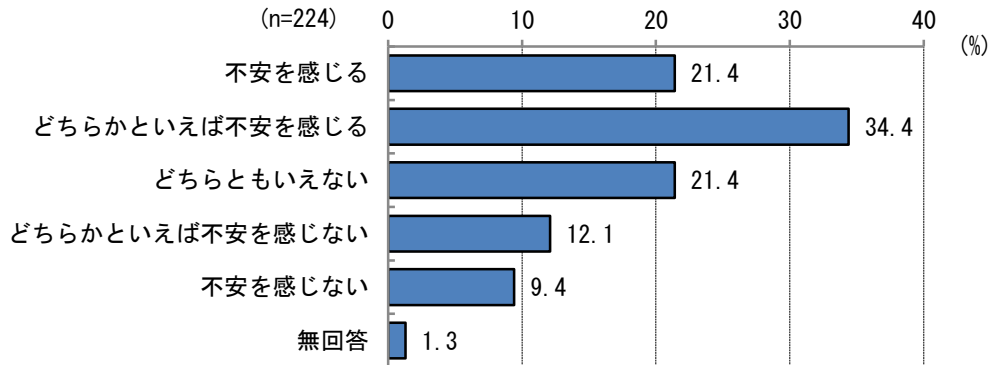
- ・居住環境として重要だと考える項目については、「通勤・通学に便利」が59.4%と約6割を占めて最も高く、次いで「治安が良い」(43.8%)、「買い物や飲食など日常生活が便利である」(29.9%)、「緑や自然が多い」(23.7%)、「公共交通網が整備されている」や「災害に強いまちである」(21.9%)の順となっている。
- ・(3)の稲美町の強みと比較すると、治安の良さ、自然の豊かさ、災害の少なさ(災害への強さ)などでは上位項目で一致している一方で、通勤・通学への利便性では重要性の高さに比べて、住民の評価はやや低くなっている。



### 3. 人口問題について

#### (1) 人口減少が進むことに対する不安

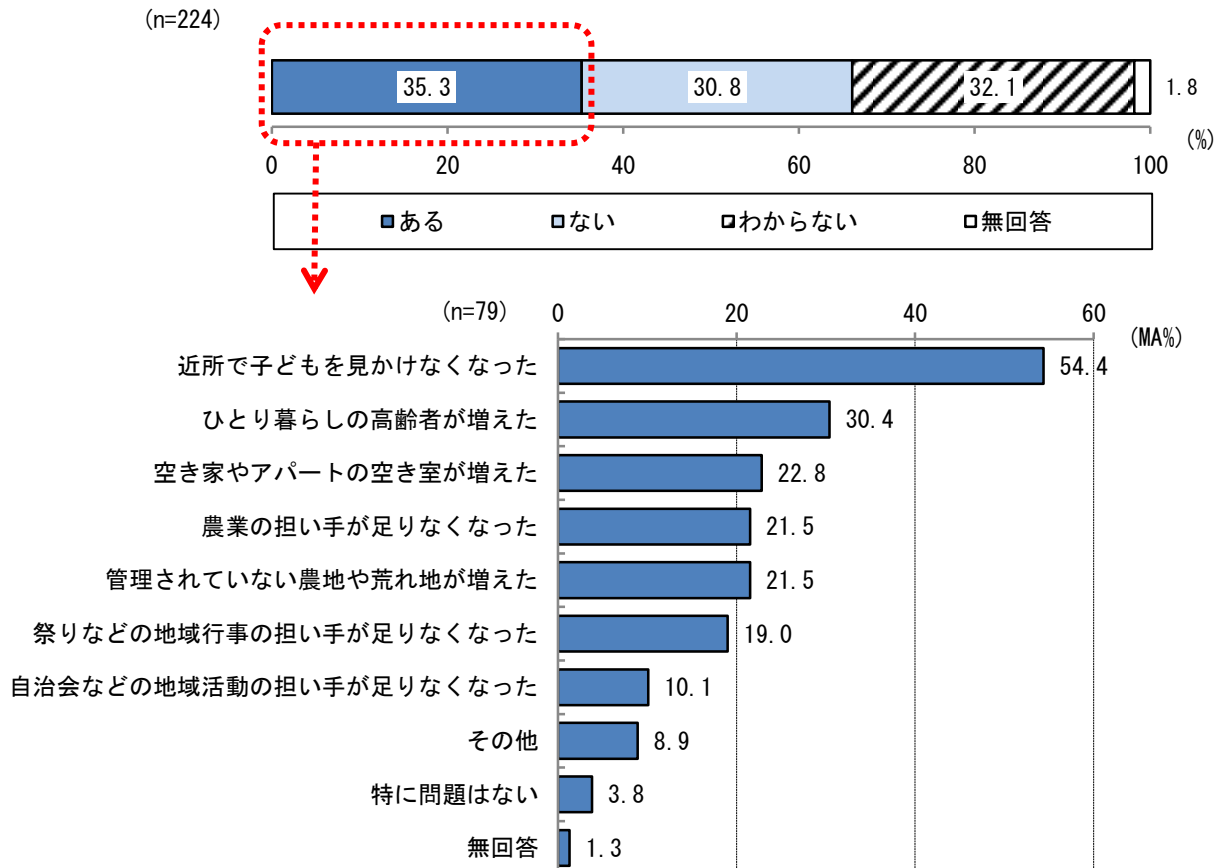
・人口減少が進むことに対する不安については、「どちらかといえば不安を感じる」が34.4%と3割を超えて最も高く、「不安を感じる」(21.4%)と合わせると、半数以上の人が人口減少に不安を感じていることがわかる。



#### (2) 日常生活の中で人口が減っていると実感することの有無

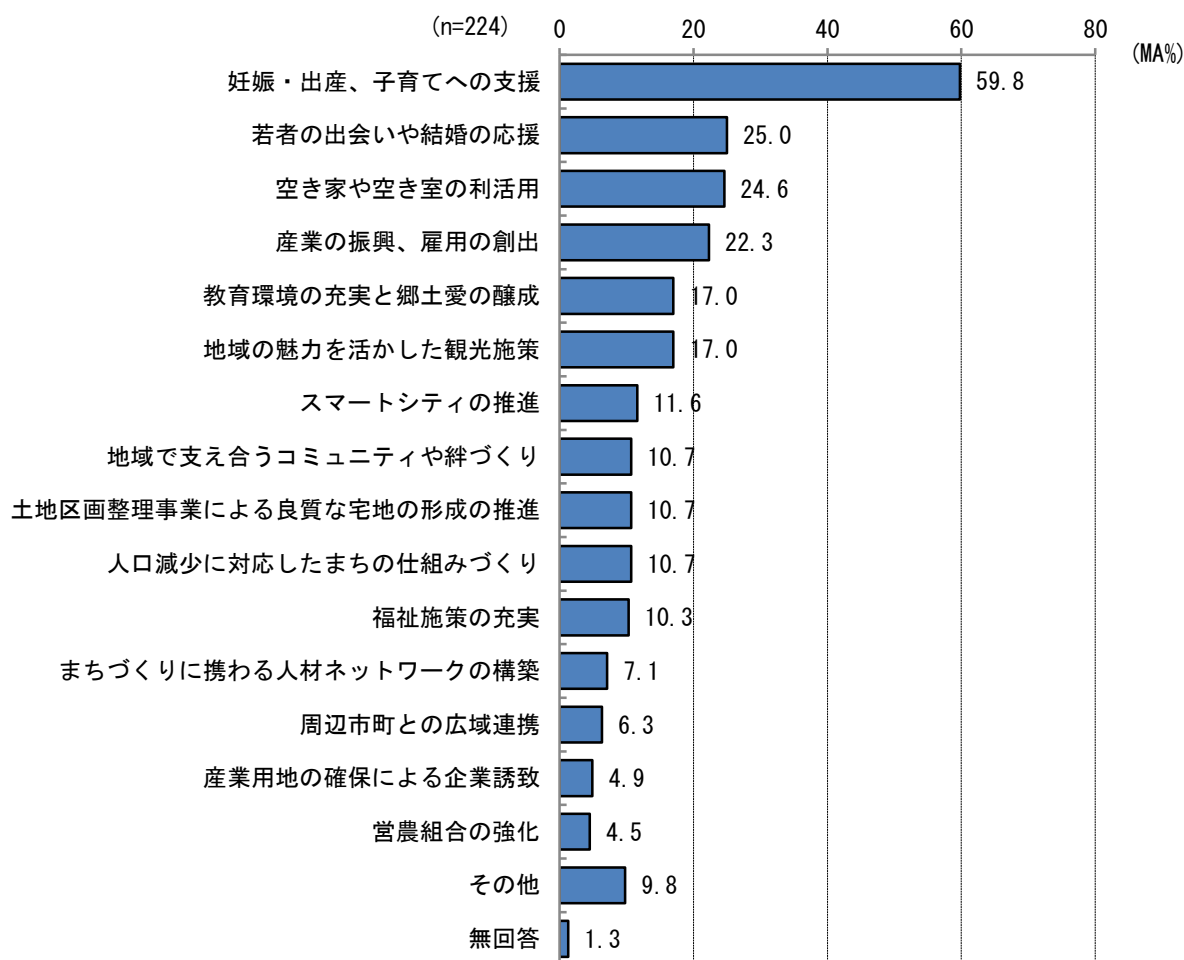
・日常生活の中で人口が減っていると実感することについては、「ある」が35.3%と3割以上を占めている。

・実感することがあると回答した人で、身の回りに起きている問題では、「近所で子どもを見かけなくなった」が54.4%と半数を超えて最も高く、次いで「ひとり暮らしの高齢者が増えた」(30.4%)、「空き家やアパートの空き室が増えた」(22.8%)の順となっている。



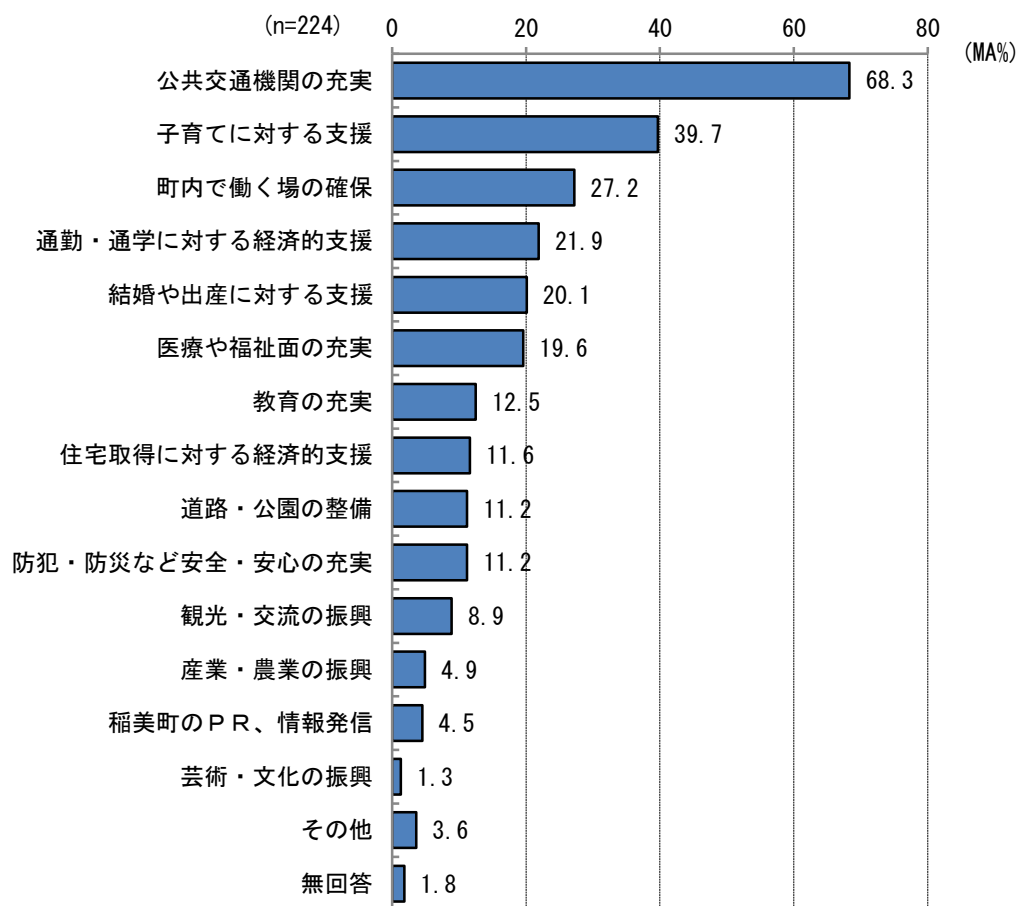
### (3) 人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組み

- ・人口減少を抑制するために、力を入れるべき取り組みでは、「妊娠・出産、子育てへの支援」が59.8%と約6割を占めて最も高く、次いで、「若者の出会いや結婚の応援」(25.0%)、「空き家や空き室の利活用」(24.6%)、「産業の振興、雇用の創出」(22.3%)の順となっており、人口増に直接かかわる妊娠・出産への支援や出会いや結婚の応援に対する要望が高くなっている。



#### (4) 若い世代が定住していくために力を入れるべき施策

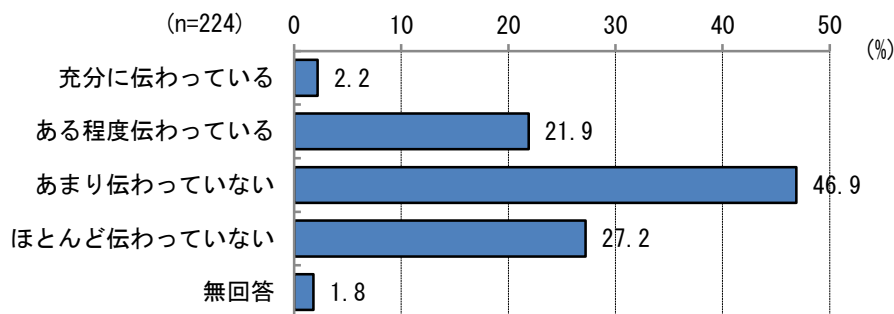
- 若い世代が定住していくために力を入れるべき施策では、「公共交通機関の充実」が68.3%と7割近くを占めて最も高く、次いで、「子育てに対する支援」(39.7%)、「町内で働く場の確保(企業誘致、起業家支援、雇用情報の提供など)」(27.2%)、「通勤・通学に対する経済的支援」(21.9%)の順となっており、居住環境における重要項目と同様の傾向となっているものの、子育て支援を含む福祉面の充実、雇用の確保が望まれている。



## 4. 行政やまちづくりへの住民参加等について

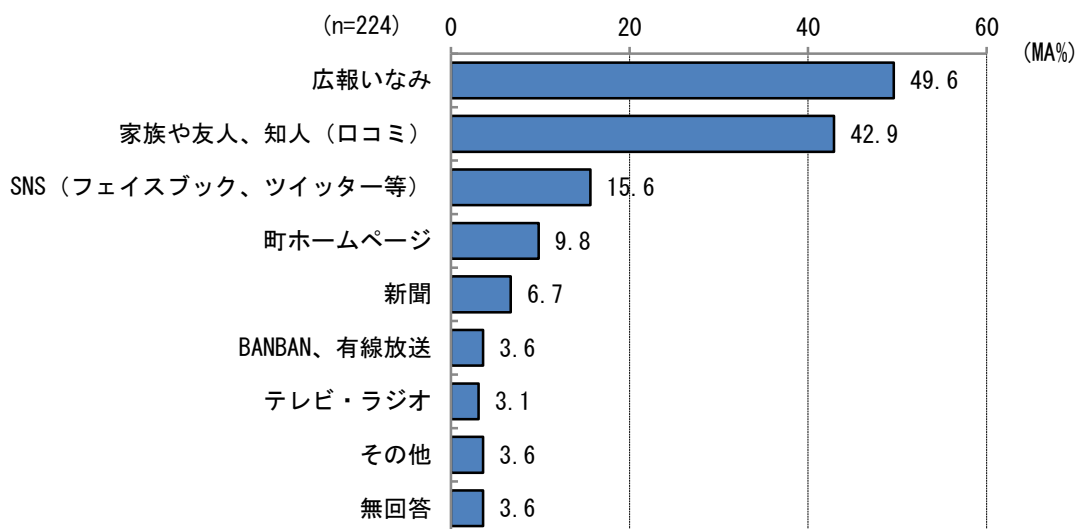
### (1) 町政に関する情報の入手状況

- 町政に関する情報の入手状況については、「あまり伝わっていない」が46.9%と4割を超えて最も高く、「ほとんど伝わっていない」(27.2%)と合わせると、7割以上の方が町政に関する情報は伝わっていないと感じていることがわかる。
- 一方で、「十分に伝わっている」(2.2%)と「ある程度伝わっている」(21.9%)を合わせると、2割以上の方が町政に関する情報は伝わっていると感じていることがわかる。



### (2) 町の情報を知るために利用している手段

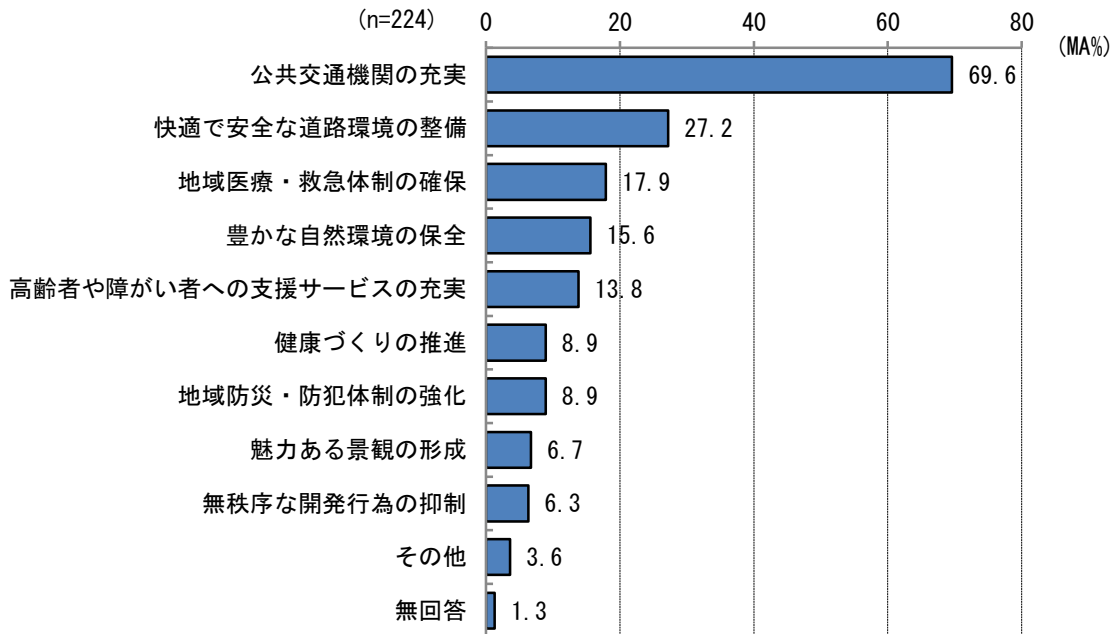
- 町の情報を知るために利用している手段については、「広報いなみ」が49.6%と約半数を占めて最も高く、次いで、「家族や友人、知人（口コミ）」(42.9%)、「SNS（フェイスブック、ツイッター等）」(15.6%)、「町ホームページ」(9.8%)の順となっている。





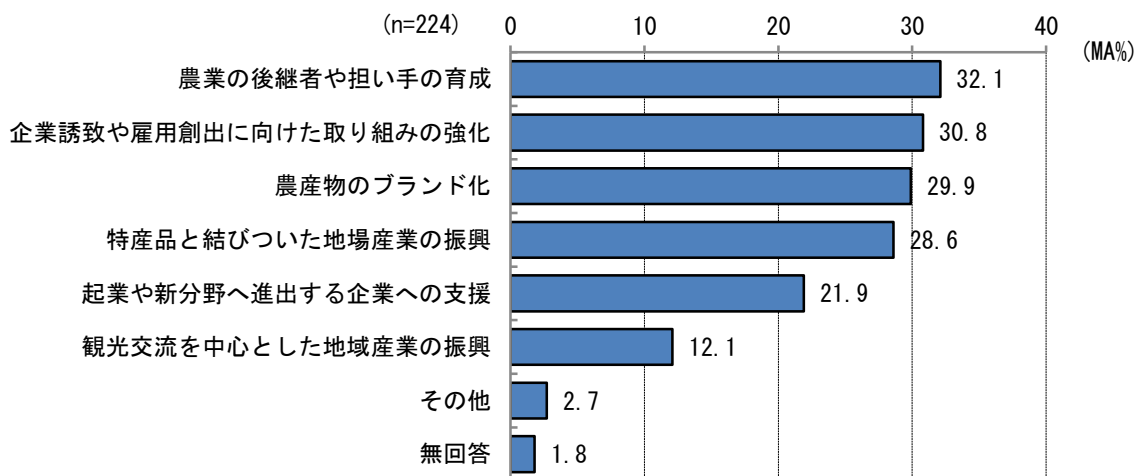
### (3) 住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策

・住みよい生活環境の創出に向けて重要だと思う施策では、「公共交通機関の充実」が69.6%と約7割を占めて最も高く、次いで、「快適で安全な道路環境の整備」(27.2%)、「地域医療・救急体制の確保」(17.9%)の順となっており、公共交通機関の充実を望む人が多くなっている。



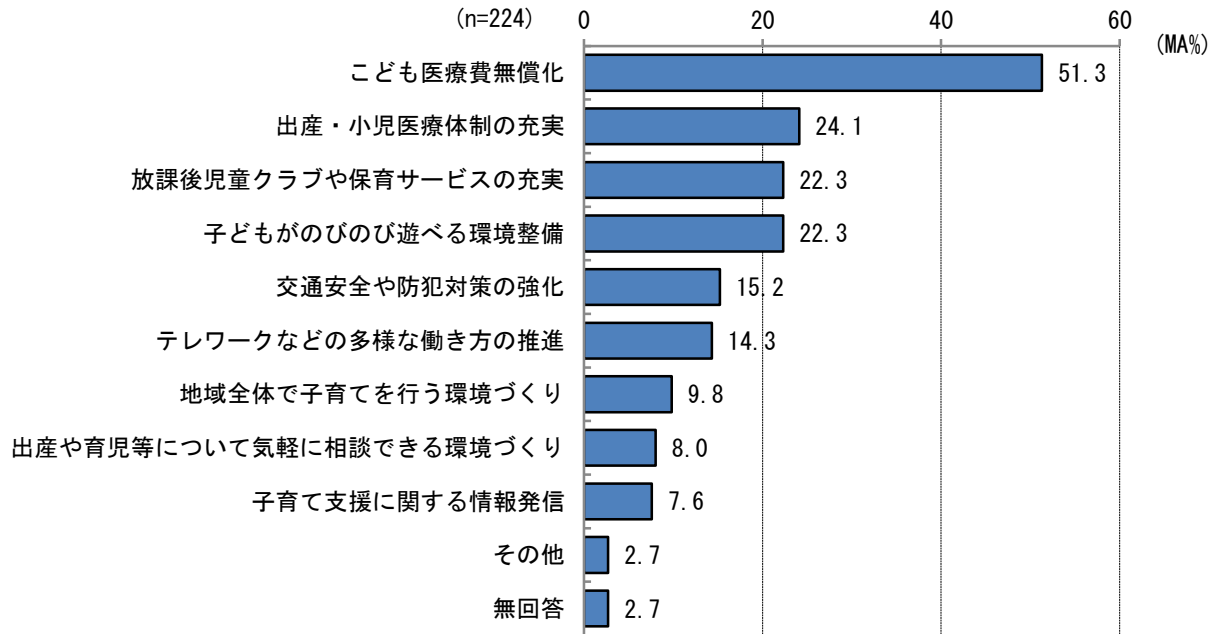
### (4) 産業を活性化させるために重点を置くべきこと

・産業を活性化させるために重点を置くべきことでは、「農業の後継者や担い手の育成」が32.1%と3割以上を占めて最も高く、次いで、「企業誘致や雇用創出に向けた取り組みの強化」(30.8%)、「農産物のブランド化」(29.9%)、「特産品と結びついた地場産業の振興」(28.6%)の順となっており、雇用創出や担い手の育成などを望む人が多くなっている。



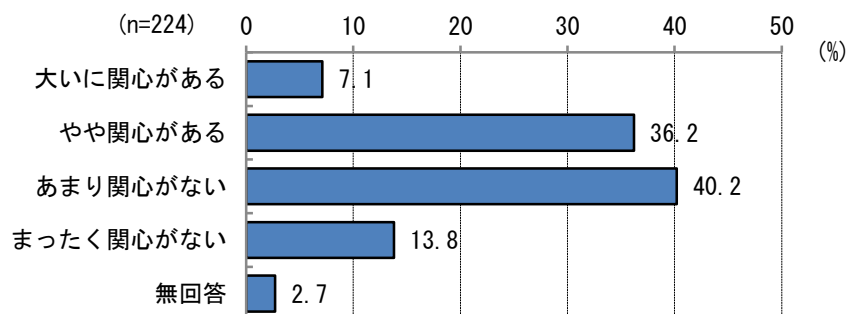
### (5) 子育て支援のために重要だと思う施策

- 子育て支援のために重要だと思う施策では、「こども医療費無償化」が51.3%と半数以上を占めて最も高く、次いで、「出産・小児医療体制の充実」(24.1%)、「放課後児童クラブや保育サービスの充実」及び「子どもがのびのび遊べる環境整備」(22.3%)の順となっており、医療費の充実や子育て支援サービスと環境整備を望む人が多くなっている。



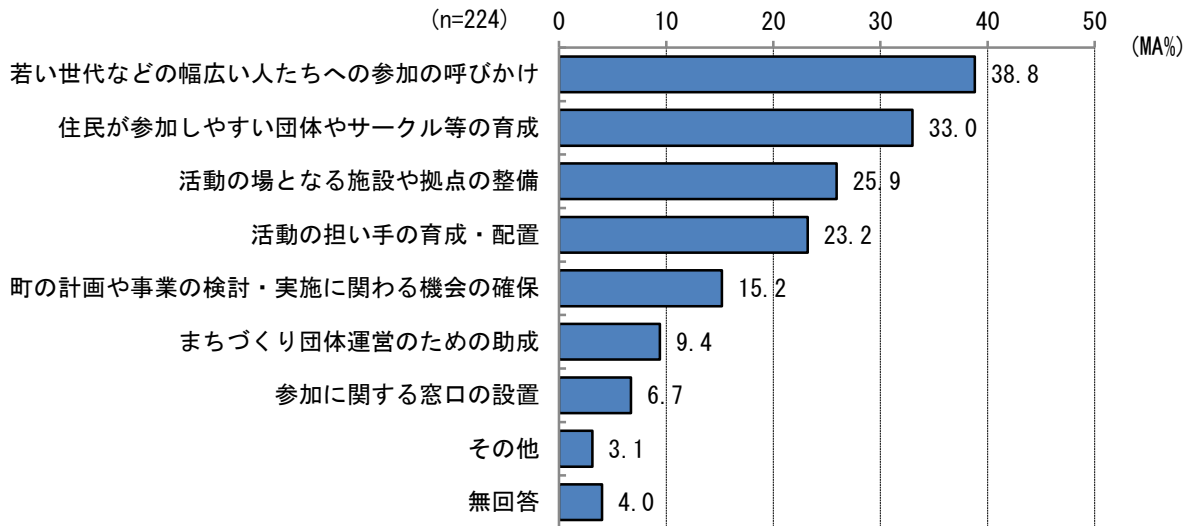
### (6) 住民参加のまちづくり活動に対する関心度

- 住民参加のまちづくり活動に対する関心度については、「あまり関心がない」が40.2%と約4割を占めて最も高く、「まったく関心がない」(13.8%)と合わせると、半数以上の人々が住民参加のまちづくり活動に関心を持っていないことがわかる。
- 一方で、「大いに関心がある」(7.1%)と「やや関心がある」(36.2%)を合わせると、住民参加のまちづくり活動に関心を持っている人が4割以上を占めている。



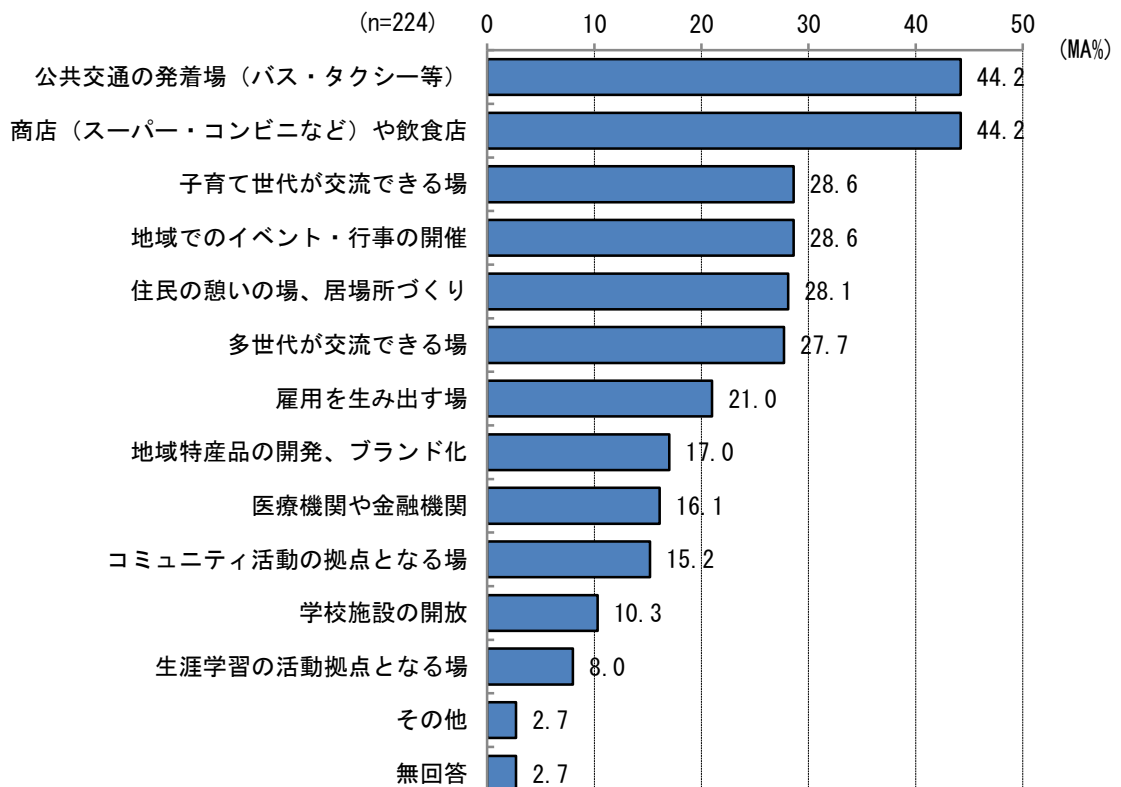
### (7) 町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策

・町政やまちづくりへの住民参加を進めるために重要だと思う施策では、「若い世代などの幅広い人たちへの参加の呼びかけ」が38.8%と4割近くを占めて最も高く、次いで、「住民が参加しやすい団体やサークル等の育成」(33.0%)、「活動の場となる施設や拠点の整備」(25.9%)、「活動の担い手の育成・配置」(23.2%)の順となっており、団体や担い手の育成を望む人が多くなっている。



### (8) 地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能

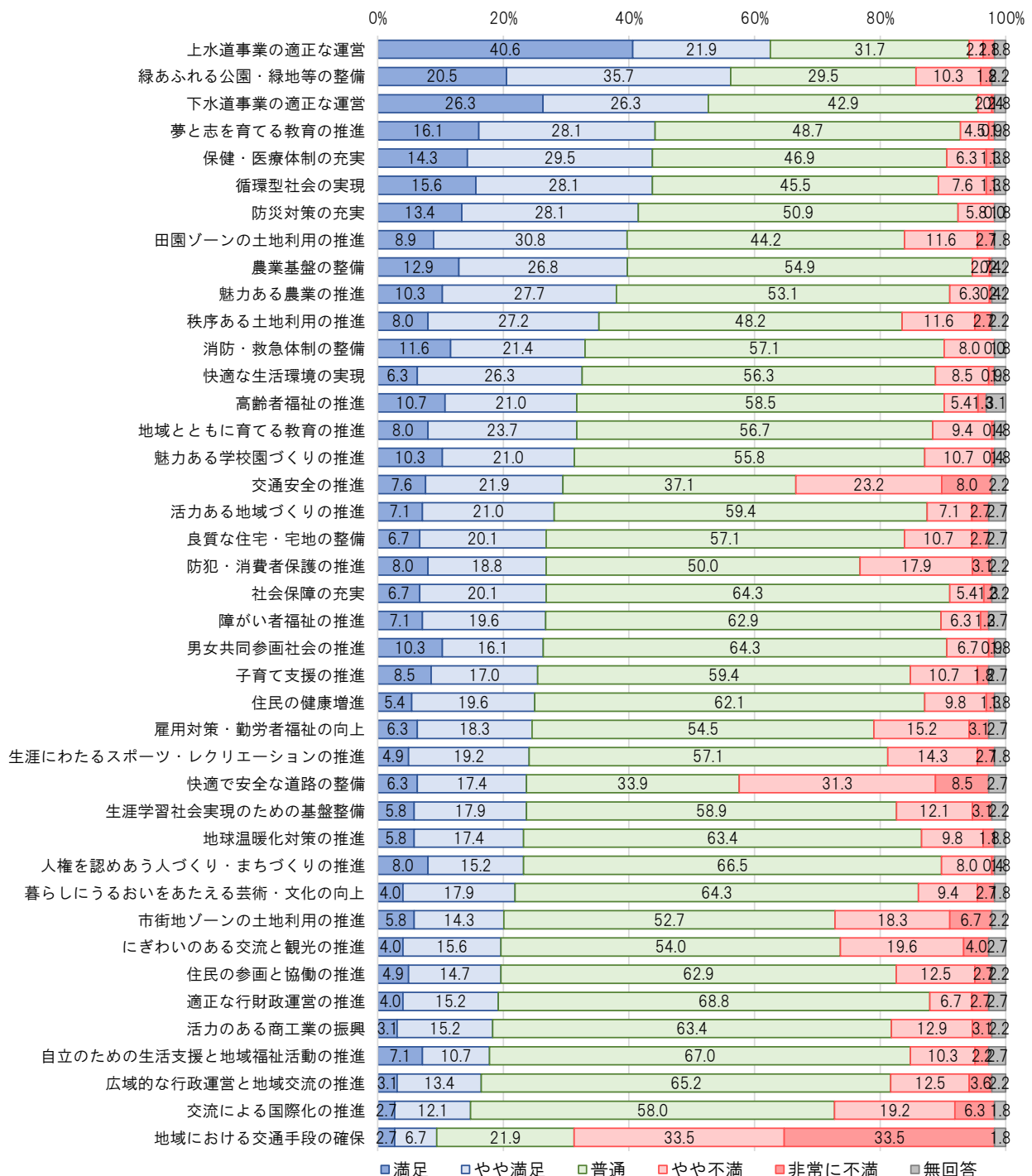
・地域のにぎわいを創出するために必要だと思う機能では、「公共交通の発着場（バス・タクシー等）」及び「商店（スーパー・コンビニなど）や飲食店」がともに44.2%と4割以上を占めて最も高く、次いで「子育て世代が交流できる場」及び「地域でのイベント・行事の開催」(28.6%)の順となっている。



## 5. 稲美町の施策について

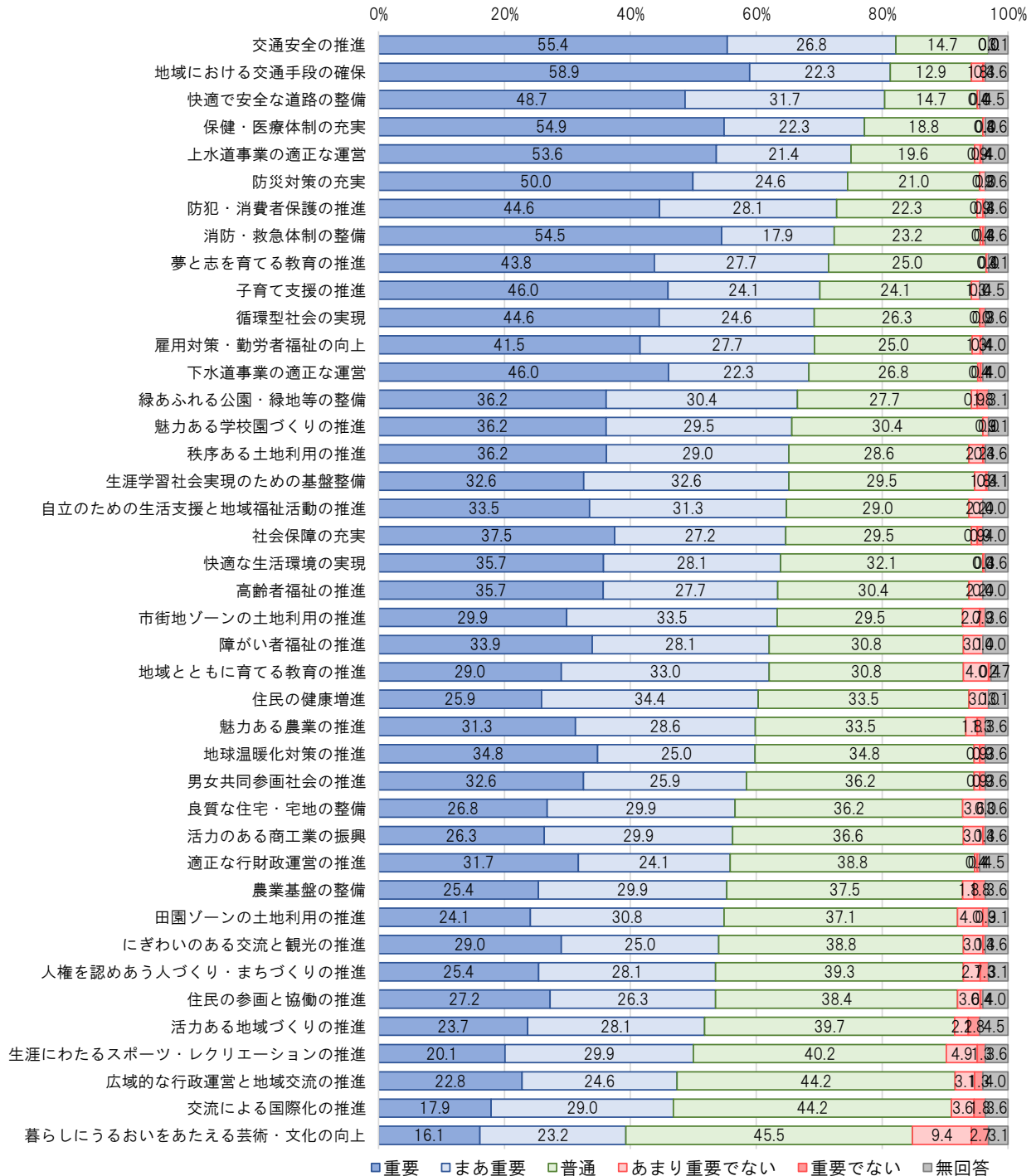
### (1) 町の施策の満足度

- ・町の施策の満足度では、「満足」と「やや満足」を合わせた『満足』の割合をみると、“上水道事業の適切な運営”で62.5%と6割以上を占めて最も高く、次いで、“緑あふれる公園・緑地等の整備”(56.2%)、“下水道事業の適正な運営”(52.6%)、“夢と志を育てる教育の推進”(44.2%)、“保健・医療体制の充実”(43.8%)の順となっている。
- ・一方で、「やや不満」と「非常に不満」を合わせた『不満』の割合をみると、“地域における交通手段の確保”で67.0%と7割近くを占めて最も高く、次いで、“快適で安全な道路の整備”(39.8%)の順となっており、交通面での不満が高い傾向となっている。



## (2) 町の施策の重要度

- ・町の施策の重要度では、「重要」と「まあ重要」を合わせた『重要』の割合をみると、“交通安全の推進”で82.2%と8割以上を占めて最も高く、次いで、“地域における交通手段の確保”(81.2%)、“快適で安全な道路の整備”(80.4%)の順となっている。
- ・(1)と比較すると、不満の高い交通面の施策について重要性が高いと感じている人が多い結果となっている。



### (3) 稲美町の行政施策全般の満足度

- ・稲美町の行政施策全般の満足度については、「どちらともいえない」が44.6%と4割以上を占めて最も高くなっているものの、次いで「やや満足している」(29.5%)となっており、「満足している」(7.6%)と合わせると、4割近くの人が稲美町の行政施策全般に満足していることがわかる。
- ・一方で、「やや不満である」(10.3%)と「不満である」(4.5%)を合わせると、行政施策全般不満を感じている人が1割以上となっている。

